

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	みらい創生学園神辺校道上校			公表日	2026年3月9日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		ボルダリング、スイング、トランポリン等の運動ができるスペースと学習やボード・カードゲーム、クラフト等ができるスペースを分けて定員で十分活動できるようにしている。	個別スペースを確保するためついでたでの活用も検討する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		子どもに目が届き、特性に対応できるよう職員を配置している。	職員配置を適切に行い、より安心できる支援環境づくりに努める。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		学習や運動等活動に応じた部屋の使い方を決めている。学習用具や遊び道具、クッキングの用具等、児童のわかりやすい配置にしている。	学習や運動の活動が適切に行われるよう部屋の使い方について再度確認し、落ち着いた環境づくりに努める。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		清潔を心がけ清掃や片付けを全体で意識して行っている。 ボルダリング、トランポリンやカードゲーム、クラフト等の活動ができる。	短時間でも外での遊び、おにっこ等走り回れる場所があればとの意見もある。近くのグラウンドの利用も検討する。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	1	学習と運動の部屋を分けている。 個別のスペースが必要な時は別室での対応を可能にしている。	もう一つ小部屋が欲しいという意見もある。 必要に応じてついでた等を活用して個別のスペースも確保していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4		打合せの時間を設け、利用者の状況について目標設定等の共有をしている。気づきがあればその都度情報共有するようにしている。	職員間での話し合いの機会を増やし、情報共有と連携の強化を図っていく
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者様評価の結果を職員で共有し、意見や要望をうけて具体的な支援につなげるようにしている。	職員間全体で共有できるようにしていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		打合せの時や気づきのある時に意見交換をしている。	随時意見交換をし改善に努める。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		3	第三者による外部評価は行っていない。	第三者から指摘があった時には共有し改善に努める。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	1	研修計画を立て研修を行っている	より多くの職員が参加できるよう日時等検討する。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	1	支援プログラムを作成し公表している 掲示していつでも確認できるようにしている。	支援プログラムについて職員に周知していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		個々のアセスメントを行い保護者のニーズを受け客観的に分析を行い作成している。	ニーズや課題に応じた適切な計画で進めているか常に確認をしていく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		こどもの支援に関わる職員で支援会議を持ち検討を行っている。	非常勤職員も含めて支援の方向性を具体的に共有していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		支援の方向性を職員で確認しながら進めている。	非常勤職員も含めて情報共有の機会を増やす
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		日々の行動観察等により子供の適応行動の状況の確認している。	非常勤職員も含めて情報交換をし共有していく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		ガイドラインを参考にし、保護者話や実態を基に必要な項目や支援内容を設定している。	非常勤職員も含めて支援内容・具体的方向性を共有していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		立案したものをチームで検討を行い決定している。	非常勤職員も含めて意見交換する。

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		利用者に合わせてインターネットなどの情報等を参考にして多様な活動を工夫している。	今後も情報を集め、利用者にあった活動プログラムにしていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		集団活動が中心ではあるが、活動内容や利用者の状況に応じて個別の対応も行っている。	個々の状況に合わせて個別活動と集団活動を組み合わせ、集団活動がスムーズに成り立つよう工夫が必要な時もある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		毎日ミーティングを行い、その日の支援内容や役割を確認し支援を進めている。	非常勤職員も含めて共有し、支援を進めている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	勤務時間の関係から支援終了後は緊急に必要な情報のみ話し合い、次の日に前日の振り返りも含めた打合せと確認をしている。	非常勤職員も含めて情報交換をし共有していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	1	個々について日々の記録をし支援の検証・改善につなげている。	記録を支援の改善に役立てていく
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		定期的にモニタリングを行い、計画の見直しを行っている。	モニタリングで本人と保護者のニーズの変化を捉え次の計画に適切に反映できるよう努める。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4		個々の子どもに応じて5領域の視点をふまえ「4つの基本活動」を組み合わせ支援を行っている。	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」について職員全体で改めて見直しを進めている。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		選択肢を提示するなどし、子どもが決めて活動できるように意識している。	個々に応じた選択枝を用意し、達成感をもちさせていきたい。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		子どもの状況をよく理解した児発管が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		必要に応じて医療、福祉、保育、教育機関と連携を行い支援を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		個別計画の共有を行っている学校もある。行事予定や下校時刻は保護者が連絡をくださるが必要に応じて学校と情報共有を行っている。	学校へ迎えに行ったときに様子や状況を聞き支援につなげる。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4		就学前の支援の状況について相談支援事業所を通して情報共有している。	必要に応じて連携を行い、支援につなげていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4		該当者がいなかった。	該当者がいないが、該当がある際には支援内容等についての情報提供していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2		連携や研修の機会はなかった。	必要に応じて関係機関との連携を図っていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	1	校外活動活動等で他の事業所との交流して楽しむ機会を設けている。	これまでの交流に加えて、清掃活動や挨拶など地域と交流したり貢献できたりする活動を考えていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		3	参加できていない。	情報を確かめて参加する機会を作っていきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		送迎時に保護者と話をしたり連絡ノートでその日の状況を伝えたりしている。	保護者に安心して相談していただけるよう全職員で努めていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4		特に行っていないかった。	家族に対しての研修の機会や情報についてのアンテナを広げ、情報提供に努めたい。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に丁寧な説明を心がけて行っている。	分かりやすい説明になるよう努めていく。	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		子どもと保護者からしっかり話を聞く中で状況と意向を十分に踏まえた上でサービスの提供を行っている。	子どもと保護者の意向をしっかりと確認していく。	
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		計画を示して内容を説明し同意のサインをいただいている。	計画について丁寧に説明して同意をいただいて支援を進める。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		保護者からの相談に適切に応じ、面談や必要な助言を行い、職員間で共有して支援を進めている。	保護者に安心していただけるよう支援を考えていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	1	5	保護者同士の交流やきょうだい同士の交流機会を設けることができていない。	保護者やご家族に参加いただけるイベント等について検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情の相談窓口を設け、苦情があった時には管理者を中心に迅速かつ適切な対応を心がけている。	職員間での情報共有を密にし、速やかな報告・連絡・相談を行い、再発防止や事前に防げる体制づくりに努めていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		HPやSNS等を活用して定期的に通信を発行して活動内容を発信したり活動の予定を伝えたりしている。	インスタやHPも見てもらえるよう周知していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人の情報は鍵付きロッカーで保管し、SNSやHPでの写真等は保護者の同意を得て配信を行っている。	個人情報の取扱いに十分留意していく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		特性に合わせた伝え方を工夫している。	安心して意思疎通ができるよう個々の特性に合わせた伝え方を工夫していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	1	地域との交流ができていない。	地域の方々との交流ができるようイベント等について検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1	必要なマニュアルを策定しそれぞれ計画を立てて研修や訓練を行っている。	保護者にも周知できるよう、施設内の見やすい位置にマニュアル等を設置し、いつでも確認できるようにしていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	1	業務継続計画（BCP）を策定し、火事や地震・水害などの非常災害時に備えての訓練を計画し行っている。	非常時に備えた訓練を定期的に行っていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	1	契約時に服薬等の状況を確認している。また、配慮事項が出てきたときにはその都度保護者から情報を得て記録し、職員に周知している。	服薬や予防接種、てんかん発作等の服用は、現段階では利用がないが、丁寧な対応を行い、必要に応じてマニュアルを作成する。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	保護者からの情報を受け、アレルギーのある利用者について、クッキングや食事、おやつの際には、職員間で確認を徹底している。	クッキングや食事、おやつの際には、職員間で確認を徹底する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画に沿って、必要な研修や訓練を定期的に行っている。また毎月施設の安全点検を行っている。	安全の不備があった時には速やかに対応し、利用者の安全確保に努める。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		活動内容に応じて保護者と連携を取り安全確保の対応について職員間で協議している。	今後も安全面の対応について保護者と連携を取り協議していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	1	ヒヤリハットについて職員間で共有し対応を検討して実行している。	職員間で十分な情報確認をし、十分な検討をする。また、ヒヤリハットは、文章でまとめる。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	1	職員研修を行い、適切な対応について職員全体で確認している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		身体拘束についての研修を行い対応について職員全体で確認している。計画に記載が必要な利用者はいない。		